

## 令和3年度事業計画

### 【はじめに】

令和元年度末より始まった新型コロナウイルスによる感染は世界的な広がりを見せ、令和2年4月には日本でも緊急事態宣言が出されたにも関わらず、第3波の感染拡大のピークを迎えるなど、世界的に人の集まるイベントのほとんどが、中止・または延期され、人々の生命財産に甚大な被害を与えました。さらに、令和3年度も第4波の感染拡大が危惧される中、オープン7年目を迎えた四万十ヤイロチョウの森ネイチャーセンターは、スタッフの人員を増強して、令和3年度を実り多い年にしたいと考えています。

また、令和元年度末より原木シイタケの森づくりなどの新たな事業もスタートさせており、生態系保全活動を支える地域資源の活用にも着手しています。

大規模風力発電に対する動きとしては、令和2年3月に開催された四万十町議会で「ヤイロチョウのさえざる町づくり条例の早期制定を求める請願書」が採択されましたが、町執行部より具体的な動きはありませんでした。

また、令和2年12月に開催された四万十町議会で「四万十ふるさとの自然を守る会」より提出された大規模風力発電の反対を求める署名に対して、「四万十川の保全と比較して設置するメリットがない」という英断ともいえる決議文を採択しましたが、四万十市と四万十町の境界の尾根筋に設置される計画のため、四万十市も含めた「流域住民の四万十川を守る取り組み」など、下記の事業に取り組みたいと考えています。

### 【トラストの森の拡充と調査・保全・パトロール等の取り組み】(1)(2)(3)(4)

- 1、大規模風力発電が四万十川に与える、災害時の濁水、土砂崩れ、土石流などについて下流域住民と連携して取り組みを進める。また、ヤイロチョウの渡りのルート上にある国や地域に対して『大規模風力発電による渡り鳥の被害防止』を働きかけます。
- 2、ヤイロチョウの森の生物多様性を保全するため、保全を目標とする野生生物の調査研究を継続して行います。
- 3、平成20年に高知市に開園した「鶴田公園」については、近隣の保育園・PTAなどにも保全・利活用への協力を呼びかけます。各地のトラスト地の調査・保全・活用などの成果は会報誌『森のしずく』などへ報告します。

### 【自然林再生とワンダーランドの森整備の取り組み】(2)(4)(5)

- 1、ヤイロチョウが飛来する自然林から、ドングリやヤマザクラ等の広葉樹の種を採取し、自然林再生事業に活用する苗木を育てます。また、原木シイタケ体験の森などを活用して地域の伝統的な産業について学ぶ機会を作り、保護協定を結んでいる「王子ホールデ

イングスの社有林」や、トラスト活動で当協会が取得した「ワンダーランドの森」周辺に、トレッキングコースや自然観察路、観察小屋等の整備を進め、エコツアー地域としての発展を期するものとします。

**【企業・行政・他団体と協力した森や水辺の保全活動】**（１）（２）（５）（７）（８）（９）

1, 2019年度にNHKBSプレミアムで報道されたヤイロチョウの知名度が、コロナウィルス感染の影響により薄れていくのを防ぐため、企業、行政、他団体との連携を強化するとともに、インターネットによる独自の情報発信能力を高めていきます。

**【出版活動等の強化・拡充】**（１）（５）（６）（９）

当協会の活動を、会員や一般の人々に知っていただき、新たな会員や支援者を増やすため、会報誌『森のしずく』を年6回以上発行する他、インターネットのFacebookやユーチューブによる配信を行います。

- 1, 中西悟堂協会編の『野鳥居』11号を発行します。
- 2, 電子書籍を含めて生態系保護思想の普及に関する書籍を出版します。
- 3, 自主事業として、ヤイロチョウクッキーや、新たなグッズ類の販売に取り組みます。
- 4, インターネットを活用した『季節ごよみ』の普及啓発活動に取り組みます。
- 5, 8月16日「ヤイロチョウの日記念イベント」や、5月16日「コロナ時代の自然体験フォーラム」などを開催します。
- 6, 流域の他団体や個人と連携して四万十川流域協議会の設置・運営に協力します。

\*（ ）は、定款第5条に記載された事業の数字